

■ブラジル：原子力発電がエネルギー計画の中心へ

ブラジルのエネルギー専門家は2011年1月3日、原子力発電が今後のブラジルのエネルギー計画の中心になるという見方を示した。それによると、2020年までに開発可能な水力発電所の建設は終了し、その後は原子力発電が大規模発電プロジェクトになるとしている。鉱山エネルギー省は、2010年末に原子力発電所建設に関連する装置や機械にかかる輸入税および連邦税を廃止することを決定しており、このことから政府が今後の原子力発電所建設を前向きに捉えていることが窺える。現在、ブラジルで稼動している原子力発電所は、アングラⅠ（最大出力65.7万kW）とアングラⅡ（同135万kW）である。なお、アングラⅢ（同140万kW）が建設中で、関係者によると、今回の鉱山エネルギー省の決定により、建設費が7億レアル（約350億円）程度軽減される見通しである。